



第2分科会 健康生きがいと自己表現 / 第3分科会 健康生きがいと住まい方

慶應義塾大学医学部 教授 **今西宣晶 氏**

「高齢社会に対して美容医療ができることー現状と展望ー」

抗加齢医学が数年前より注目され疾病治療型の医療から予防医学への医療へと大きく舵が切られようとしています。抗加齢医学では単に寿命を延長し高齢生存者のカーブを右肩上がりにするのが目的だけではなく、長寿の質が重要であるとし、肉体的だけでなく精神的にも元気であること目指しています。形成外科領域で行う美容医療も抗加齢医学の一つであり、例えば外観のしわやシミを治療することにより、外観の改善だけでなく、心の改善を図り、元気で充実した日常生活をおくってもらうことを提供することになります。講演では進歩してきた美容医療の現状と今後増大する高齢者社会における美容医療の役割と展望を報告したいと考えます。

聖心女子大学文学部 教授 **菅原健介 氏**

外見の年齢変化に対する態度とその影響

「若さ」のイメージを保つことは、現代人の関心事の一つである。特に、美容や外見の領域に関しては、アンチエイジングの技術的進歩にも支えられ、かつてのように外見から年齢を類推しにくい状況になっている。しかし、加齢に伴い外見は変化していく。「若さ」への志向性が高まる中、現代人は外見のエイジングにどう対応しようとしているのだろうか。これまで行ってきた調査データを基に、心理学的な視点から、外見のエイジングに対する心の態度が年齢と共にどう変化していくのか、また、そうした態度の個人差は、人々の意識や生活にどのような影響を与えているのか、という点について検討してみた。

まず、外見変化に対する多様な意見を収集し、20歳から74歳までの女性を対象に、それぞれが当てはまる程度を答えてもらった。年齢別に比較すると、「外見の若さ」を求める態度は、年齢と共に低下し、代わって、「諦め」の意識が増加していく。しかし、それだけではなく、年齢が高まるほど、「内面の若さ」を志向する人も増えていくことが示された。

こうした意識には個人差も大きく、同じ年齢でも外見変化に対する考え方は様々である。その差異が意識や行動にどのような影響があるかを見るために、対象を50歳台、60歳代の女性に限定し、「外見の若さ」「内面の若さ」への志向性と生活意識との関係を検討してみた。その結果、外見若さ志向が高い人は、社会的で活動的だが評価懸念や加齢への不安が高かった。一方、内面若さ志向の高い人は、全般に無理をせず、

株式会社資生堂 副社長 **岩田喜美枝 氏**

「シニア女性の健康・生きがいと化粧」

1. 社会貢献活動として：資生堂SLQセミナー
1975年以降、全世界で実施。資生堂の社会貢献活動の柱である、化粧の力で人々を元気にする活動。
2. 社会性ビジネスとして：高齢者美容サービス
高齢者の身体機能の改善や脳の活性化を促すプログラムで、すべての高齢女性への美容と健康のサポート。
エビデンス1) 化粧による身体機能の改善
エビデンス2) 化粧による脳機能の改善

プライバシーを大切にしたい優雅な生活を好んでいた。また、外見、内面の両方の志向性が高い人は、社会に対する関心領域が広く、仕事の面でも趣味の面でもアクティブに生活を楽しむ様子がうかがえた。

このように、単に見た目の若さにのみ固執することは、人付き合いの面では積極的だが、関心がそこに限定され、他者の評価に左右されながら老いの不安を抱えることにつながりかねない。また、見た目の若さが達成できなくなったとき、一気に「諦め」へと向かう可能性も考えられる。内面の若さというもう一つの目標を取り入れることで、興味関心が広がるとともに地に足の着いた自分らしい生活を築くことができるのかもしれない。



第3分科会 健康生きがいと住まい方

NPO法人じゃんけんぼん 理事長 **井上謙一 氏**

- 1：例え認知症や身体が不自由になっても住み慣れた地域で暮らしたい。
- 2：平成18年地域包括ケアの先取りとして小規模多機能型居宅介護が誕生し、在宅生活の限界点を引き上げる効果を挙げている。
多様なニーズに柔軟に応える介護保険上の画期的システム
- 3：平成24年地域包括ケアの本格的実践にあたり、互助による生活支援の支え方をシステム化する必要が生じた。
- 4：人は急に認知症にはならない。
自助・互助が発揮できる場所と機会をつくる。
- 5：地域の居場所は自分の生きがい、役割、を確認できる。
No one is alone here !
- 6：エイジング・イン・プレイス：地域居住が人生の最期までできるまちを住民主体でつくる。

日本社会事業大学 大学院特任教授 **児玉桂子 氏**

施設環境づくりでケアと暮らしを変える ー認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラムの活用ー

人口の高齢化に伴い急速に増加する認知症高齢者に対して、認知症になっても安心して、その人らしく暮らせるケアや環境の構築が大きな課題となっています。ここでは、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」に特養スタッフが取り組むことにより、「職員の意識が変わり→ケアと環境が変わり→高齢者の暮らしが変わり→高齢者や職員の健康生きがいが高まる」ことを実現した従来型特養の事例をご紹介します。講演は以下の順で進めて参ります。

- 1) 認知症高齢者への環境の重要性
心身機能の低下に伴い、取り巻く環境が大きな影響を及ぼし、従来の大規模で画一的な施設環境は認知症高齢者に混乱をもたらしてきました。